

# グローバルPDMシステムの構築により 世界4極での分散開発体制を確立、競争力を強化

アルパインでは、グローバル分散開発体制を推進するために、技術情報や部品情報、構成情報などのリアルタイムな共有を目指し、NECのPDM (技術情報管理) システム「Obligato II」を導入。製品開発効率の大幅な向上を実現し、グローバル市場における競争力を強化している。



アルパイン情報システム株式会社  
取締役社長  
鈴木 憲明 氏



アルパイン株式会社  
開発企画部 DM推進G  
マネージャー  
稲村 法久 氏



アルパイン情報システム株式会社  
ITソリューショングループ  
PDMチーム  
チームリーダー  
嵐 範充 氏

## アルパイン株式会社

東京本社 東京都品川区西五反田1-1-8  
いわき本社 福島県いわき市好間工業団地20-1  
設立 ● 1967年5月  
売上高 ● 2,650億円 (2007年3月期実績)  
社員数 ● 12,456人 (連結ベース、2007年3月31日現在)  
事業概要 ● カーオーディオ、ビジュアル、ナビゲーション、コミュニケーション、ドライブアシスト (安全運転支援機器) などの事業を展開し、次世代のカーライフを創造する「モバイル・メディア・ソリューションカンパニー」を目指している。  
URL: <http://www.alpine.com/>

USER PROFILE

## グローバルな競争力の強化に向け 設計開発を海外拠点にシフト

アルパインは、カーオーディオ・ビジュアル製品やカーナビゲーションなど、快適なカーライフを創造する製品を世界中の自動車メーカーや市販市場に提供する企業。米国、欧州を中心とした海外売上高は、実に約85%を占め、着実にグローバル・ブランドを築き上げてきた。その原動力となっているのは、市場ニーズに即応した製品の開発・生産を行う“Design in Market, Made in Market”という考え方だ。具体的には、日本で高度な製品企画やベースモデル設計を行い、中国、欧州、米国の各拠点では、各地の部品調達事情や現地顧客ニーズへ対応させたローカルモデル設計を実施。世界4極における分散開発体制を確立しているのだ。

このような体制を支えるのが、PDMシステムなどの情報プラットフォームである。同社では、その重要性をいち早く認識し、1990年代後半からその構築に向けた取り組みを開始してきた。そこには、カー製品を取り巻く事業環境が大きな転換期を迎えていたという背景がある。カーオーディオやカーナビなどが、自動車開発において“単なる一部品”から“重要なコンポーネント”と位置付けられるようになり、新車の開発計画に合わせた製品開発・生産体制が求められるようになったのだ。

「自動車メーカーの要求にタイムリーに応え、グローバル市場で競争力を高めていくには、生産・販売のみならず、設計業務も各拠点にシフトする必要がありました。そのためには、グローバルな開発・生産体制へと業務プロセスを改革するとともに、技術情報や部品情報などを一元的に管理し、各拠点でリアルタイムに情報を共有できるシステムが不可欠となったのです」と、アルパイン情報システムで取締役社長を務める鈴木 憲明氏は述懐する。

ただし、従来のシステムはグローバルな設計開発を想定しておらず、拠点ごとに部品・製品コードが異なることもあった。「同じ製品でも、生産や購買などの部門ごとに構成の異なる部品表が複数存在していました。生産部品表についても、拠点ごとに管理しており、グローバル対応を進めるためには、設計情報や生産情報を集約し、各拠点で情報を共有しながら分散開発が行える新たなプラットフォームが必要だったのです」と、アルパインの開発企画部に所属する稲村 法久氏は話す。そこで、同社ではグローバルな業務改革を主目的に、高度な情報プラットフォームの構築を決断。具体策としてPDMシステムの導入に乗り出した。

## 日本の製造業にフィットする グローバルPDMシステム「Obligato II」

同社では、グローバルPDMシステムの

選定にあたり、国内外さまざまなパッケージの比較・検討を行った。その結果、最終的に採用されたのがNECのPDMシステム「Obligato II」だった。その決め手になったのは、「CAD連携をはじめ、柔軟なカスタマイズ、わかりやすいGUIなど、当社の要件に合致したためです。また、NECは日本の製造業に熟知しており、日本独自の“ものづくり”を理解しているという安心感がありました」と、アルパイン情報システムでPDMチームのリーダーを務める嵐 範充氏は採用理由を述べる。

Obligato IIは、NECのノウハウと実績を体系化し、PDM分野の国内市場実績において11年連続で第1位を獲得している製品\*。「完成度の高い標準機能による早期立ち上げ」や「業務に合わせた柔軟なカスタマイズ」「事業の変化に応じた段階的な拡張性」といった特長を持つ。

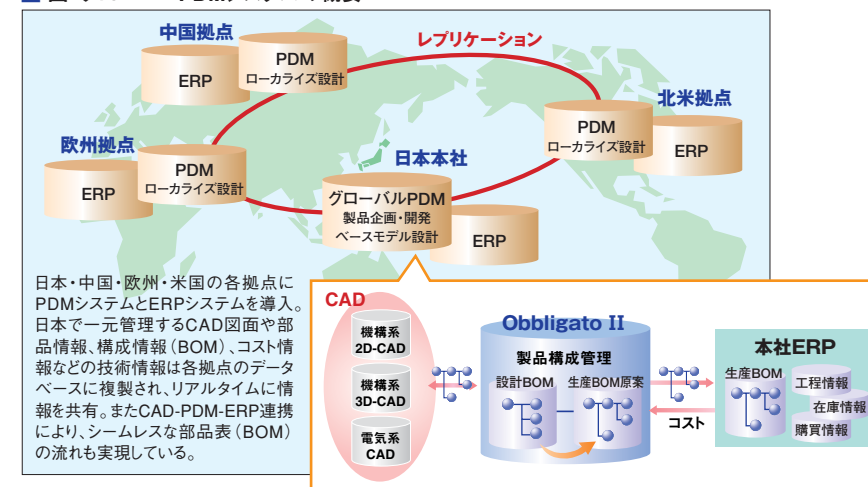
アルパインでは、Obligato IIを各拠点に導入。図面管理と部品情報管理を皮切りに、段階的に機能拡張していった。2006年の10月には、ほぼすべての機能実装を終え、主要4拠点を専用線で接続。冒頭に触れたような分散開発体制を整えている(図)。

## 海外拠点で リアルタイムに技術情報を共有

この情報プラットフォームの構築により、様々な導入効果が生まれている。まず挙げられるのは“設計開発のスピードアップ”だ。

従来、日本で作成した設計図面を海外拠点に郵送していたが、これを電子化して各拠点のデータベースへ配布し、担当者に電子通知。各拠点ではリアルタイムに設計情報を参照できるようになった。また、CAD上の構成情報をPDMシステムに取り込むことで、設計部品表(設計

■ 図 グローバルPDMシステムの概要



BOM)の生成の効率化を図った。

次に、導入の狙いの1つであった“設計・生産データの統合的な管理”も実現。従来、製品の構成情報は、設計部門においては設計部品表(設計BOM)、各生産拠点においては生産部品表(生産BOM)というように、各々が独立して作成・管理されており、設計変更が発生した場合は、その変換作業に多大な時間を要していた。それに対し、新システムでは、PDMシステム上で、設計BOMから生産BOM原案を自動生成するとともに、設計変更時には、設計BOMの変更内容を生産BOM原案に自動反映。このPDMシステム上の生産BOM原案を、国内外生産拠点のERPシステムに転送することにより、BOM作成・メンテナンス工数が大幅に削減され、設計変更のスピードアップが図れるようになった。

## コスト削減や 納期厳守の徹底を実現

導入効果はこれだけではない。業務改革の大きなテーマだった“コスト削減”も、

PDMシステムの導入により推進できるようになった。具体的には、購買情報を管理するERPとPDMシステムを連携。「ERP上の購買情報をPDMシステムに取り込み、設計者が各拠点で調達可能な低コストの部品かつ社内規定により認定された部品を選択できるので、コストを意識した製品づくりが可能です」と稲村氏は説明する。

これに加え、“納期厳守の徹底”が図れるようになった点も大きい。「PDMシステムの開発日程管理により、現場レベルでの開発工程の『見える化』が可能になってきています。今後は、経営情報とリンクさせたグローバルな開発状況の『見える化』を目指していきたいですね」と嵐氏は期待を寄せる。

PDMシステムの本格的な活用段階を迎え、グローバルな開発・生産・販売体制を推進するアルパイン。同社の事業戦略の一翼をグローバルPDMシステムが確実に担っている。

お問い合わせ  
NEC  
第一製造システム事業部 CPCソリューショングループ  
e-Mail: [oblsales@cpc.jp.nec.com](mailto:oblsales@cpc.jp.nec.com)  
Tel: 03-3456-7474

詳細はこちらから  
[www.nec.co.jp/ad/ap7](http://www.nec.co.jp/ad/ap7)

\*出典: テクノシステムリサーチ「2006年PDM/PLMビジネス市場分析調査」2006年11月